

病害虫情報(第8号)11月予報

令和2年10月30日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 11月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、抑制トマト、促成トマト、抑制キュウリ、促成イチゴ、ネギ、キャベツ、ダイコン】
- II 11月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 8

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和2年10月14日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 11月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
縞葉枯病	—	—	❖ 媒介虫であるヒメビウンカの越冬場所を減らす目的で次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②冬期～春期の畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ	—	—	❖ スクミリンゴガイの生存率を下げる目的で次の対策を実施する。 ①秋冬期に田を複数回耕起すると殺貝効果が高い。貝を破碎するため、耕うんは走行速度を遅くし、回転数を多くする。浅く細かく耕す。 ②用排水路で生存している貝の対策として泥上げを行う。地区全体で実施すると効果が高い。 ③休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。

【カンキツ】

生育:並(足柄地区事務所:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
貯蔵病害 青かび病 緑かび病 軸腐病 炭疽病	並	○	(予・治) ベフトップジンフロアブル みかん:[7日,3回] 1,500倍 みかんを除くかんきつ:[前日,2回] 1,500倍 ☞ ベフトップジンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) トップジンM水和剤[前日,5回] 青かび病、緑かび病、軸腐病: 2,000～3,000倍 等 ❖ 収穫時に傷を付けないようにし、傷果は貯蔵庫に持込まない。
ミカンハダニ	やや多	○	オマイト水和剤 みかん:[7日,2回] 750倍 みかんを除くかんきつ:[14日,2回] 750倍 等 ❖ 収穫果を長期貯蔵する場合は防除する。

【防除要否】◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
【使用時期】「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和2年・第8号・11月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント												
葉かび病	—	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] うどんこ病: 1,000～2,000倍 葉かび病: 1,000倍												
うどんこ病	—	○	(予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ポリオキシシンAL水和剤 [前日, 3回] 葉かび病: 1,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, —] うどんこ病: 300～600倍												
			等												
			❖ 葉かび病の抵抗性品種を使用している場合でも、その抵抗性を無効化させないために、ほ場内の菌密度上昇を防ぐ薬剤防除は必要。												
コナジラミ類 タバココナジラミ	並	○	アネキ乳剤 [前日, 3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ: 1,000～2,000倍												
アザミウマ類	—	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 2回] コナジラミ類: 2,000～3,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] コナジラミ類: 300倍												
			等												
			❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>GSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	GSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
GSNV(トマト茎えそ病)															
			❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。												
			❖ 栽培終了時は施設内に害虫を残さず、また施設外に出さない。												
			❖ 残渣は適切に処分し、次作のために野良生えトマトを発生させない。												

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫* 日前まで」を「* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和2年・第8号・11月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
コナジラミ類 タバココナジラミ	並	○	【育苗期:粒剤施用】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類、ハモグリバエ類:1~2g/株 【育苗期:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ類:1,000~2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類、アブラムシ類:4,000倍 【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】 プリロツソ粒剤 [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 又は、ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10~20Lに希釈/400株 【定植時:粒剤施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回:植穴土壌混和] コナジラミ類、アブラムシ類、トマトハモグリバエ:1g/株 ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] 1~2g/株 等												
アブラムシ類	—	○													
アザミウマ類	—	○													
ハモグリバエ類	—	○													
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ◆ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。 	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和2年・第8号・11月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
べと病	やや少	○	(予・治) ホライズンドライフフロアブル [前日,3回] 2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) エトフィンフロアブル [前日,4回] 1,000倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] 1,000～2,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 等 ◆ 草勢低下と夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。										
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,-] 1,000～2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] 2,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ◆ 乾燥で発生が助長されるので、日中の過乾燥に注意する。										
褐斑病	やや少	○	(予) ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤 [前日,3回]600倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] 2,000倍 等 ◆ 多湿状態で施設を密閉すると蔓延しやすく、夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。										
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] コナジラミ類:2,000～3,000倍、アザミウマ類:2,000倍 アファームエクセラ顆粒水和剤 [前日,2回] ミナミキイロアザミウマ:1,500倍 ☞ アファームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 等 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。										
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">発生するウイルス病</th> <th style="text-align: center;">媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設内外の除草を徹底するとともに、栽培に関係のない鉢物等を施設内に持ち込まない。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類												
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和2年・第8号・11月)

神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日, 3回] 2,000～3,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 (予・治) パレード20フロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 等
アブラムシ類	やや多	○	ウララDF [前日, 2回] 2,000～4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300倍 等
ハスモンヨトウ	やや多	○	プレバソンフロアブル5 [前日, 2回] 2,000倍 トルネードエースDF [前日, 2回] 2,000倍 カスケード乳剤 [前日, 3回] 4,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	マイトコーネフロアブル [前日, 2回] 1,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

タフパールと上記掲載剤の散布間隔(メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ サンクリスタル、ウララ、トルネードフロアブル、カスケード、マイトコーネ: 混用事例あり
フルピカ、カリグリーン: 3日以上

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	並	○	(予・治) アミスター20フロアブル [3日, 4回] 2,000倍 (予・治) ラリー水和剤 [7日, 3回] さび病: 2,000倍 等
黒斑病	やや少	○	◆ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。アミスター20フロアブルは、薬害を生じる恐れのあるアプローチBIやスカッシュの利用を避ける。
ネギアザミウマ	並	○	アニキ乳剤 [3日, 3回] ネギアザミウマ: 1,000倍、 シロイチモジヨトウ: 1,000～2,000倍
シロイチモジヨトウ	やや多	○	ベストガード水溶剤 [前日, 3回] ネギアザミウマ: 1,000～2,000倍 ディアナSC [前日, 2回] 2,500～5,000倍 等
			◆ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和2年・第8号・11月)

神奈川県農業技術センター

【キャベツ:三浦半島地区以外】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒腐病	やや少	○	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予) ヨネポン水和剤 [7日,5回] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ◆ 強い降雨の後には、予防散布を行う。 ◆ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。但し、汚れが生じるため収穫間際の使用は控える。
菌核病	-	○	(予) セイビアーフロアブル20 [3日,3回] 1,000倍 (予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [3日,3回] 2,000~3,000倍 (予・治) カンタスドライフロアブル [7日,2回] 1,500倍 等 ◆ 被害株は感染源になるため、速やかに除去する。
コナガ	並	○	アニキ乳剤 [3日,3回] 1,000~2,000倍 アクセルフロアブル [前日,3回] コナガ:1,000倍 ハスモンヨトウ、オオタバコガ:1,000~2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 等
ハスモンヨトウ	やや多	○	
オオタバコガ	やや少	△	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和2年・第8号・11月)

神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒腐病	やや少	○	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予) ヨネポン水和剤 [7日,5回] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ◆ 強い降雨の後には、予防散布を行う。 ◆ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。但し、汚れが生じるため収穫間際の使用は控える。
菌核病	-	○	(予) セイビアーフロアブル20 [3日,3回] 1,000倍 (予・治) トップジンM水和剤 [3日,2回] 1,000~1,500倍 等 ◆ 被害株は感染源になるため、速やかに除去する。
コナガ	並	○	アニキ乳剤 [3日,3回] 1,000~2,000倍 アクセルフロアブル [前日,3回]
ハスモンヨトウ	並	○	コナガ:1,000倍 ハスモンヨトウ、オオタバコガ:1,000~2,000倍
オオタバコガ	やや少	△	ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ダイコン】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒斑細菌病	やや少	○	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [14日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) カッパーシン水和剤又はカスミンボルドー [14日,3回] 1,000倍 ☞ カッパーシン、カスミンボルドーは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ◆ 肥料切れしないよう適正な肥培管理をする。 ◆ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。
白さび病 (ワッカ症)	やや少	○	(予) ヨネポン水和剤[7日,4回] 白さび病:500倍 (予・治) ランマンフロアブル [3日,3回] 2,000倍 等 ◆ ワッカ症の防除のために11月上旬に薬剤散布を行う。
アブラムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [7日,2回]2,000~3,000倍 ウララDF[前日,2回]2,000倍 等
コナガ	並	○	ディアナSC[前日,2回]2,500~5,000倍 アフーム乳剤[7日,3回]コナガ:1,000~2,000倍
ハモグリバエ類 ナモグリバエ	並	○	等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和2年・第8号・11月)

…… 神奈川県農業技術センター

II 11月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 11月の気象予報(気象庁 10月23日発表3か月予報)

〈天 気〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間*	30%	30%	40%

*10月22日発表1か月予報による。

(2) 11月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	貯蔵病害 青かび病 緑かび病 炭疽病 軸腐病	—	並	1) 県予察ほ(根府川)では、果実の青かび病、緑かび病等の樹上発病は平年並。(±) 2) 本年の着果量は平年並、果皮の厚さはやや厚く、減酸は平年並。(±) 3) 軸腐病と同じ病原菌である黒点病の発生は、巡回調査では平年並(±)、県予察ほ(根府川)では平年より多い(+) 5) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±)
	ミカンハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
抑制トマト 促成トマト	タバココナジラミ	少	並	1) 抑制トマトの巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 抑制キュウリの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
抑制キュウリ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±)
	うどんこ病	中	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±)
	褐斑病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±)
	タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 青色粘着板調査では、捕獲虫数が大磯町では過去6年平均よりやや少なく(—)、平塚市では平年並(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (—): 少発要因

病害虫情報

(令和2年・第8号・11月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成イチゴ	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への飛来量は、平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
ネギ	さび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	黒斑病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	ネギアザミウマ	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	シロイチモジヨトウ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
キャベツ (三浦半島地区を除く)	黒腐病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜、伊勢原ともに平年並。(±) 3) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
露地野菜全般 (三浦半島地区を除く)	ハスモンヨトウ	－	やや多	1) キャベツの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) ダイコンの巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜では平年よりやや多く(＋)、伊勢原では平年より多い(＋)。 4) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 5) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	オオタバコガ	－	やや少	1) キャベツの巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜、伊勢原ともに平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和2年・第8号・11月) …… 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
キャベツ	黒腐病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年より多い。(＋) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
ダイコン	黒斑細菌病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	白さび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	ナモグリバエ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は、平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年より多い。(＋) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
露地野菜全般	ハスモンヨトウ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年並。(±) 2) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	オオタバコガ	－	やや少	1) キャベツの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス、ネクスター、パレード20)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンバル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回